

一次の①～⑤の()に漢字一字を入れ、完成した四字熟語の意味として適当なものを後の選択肢の中から選び、記号で答えなさい。

(一〇点)

- ① () () 和雷同
- ② 眺望 () () 佳
- ③ 吳越同 () ()
- ④ 深 () () 遠慮
- ⑤ 馬 () () 東風

ア	何をしても意味がない	イ	高い所からの眺め	ウ	目の前の風景が素晴らしい
エ	計算し、深く考える	オ	危険がせまっている	カ	他の意見に流される
キ	遠くまで見通せる	ク	他人の意見を聞き流す	ケ	自分の意見を我慢する
コ	敵同士が同じ利害のために協力する				

二 次の①～⑤の（ ）に体の一部分を表す漢字を入れ、慣用句を完成させなさい。(一〇点)

- ① () もとに火がつく
- ② 網の () をくぐる
- ③ 音 () をとる
- ④ () () 塩にかける
- ⑤ 断 () () の思い

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(八〇点)

人間は想像する。その想像力はまた、さまざまな文化を創り出す創造力でもある。そしていま私たちはその創造力が作りだしたa**ボ**ウ**ダ**イな種類の文化を所有しているわけであるが、そのなかでもっとも興味深いものの一つが「妖怪」と称されているものであろう。この「妖怪」を研究する学問が、ここでいう「妖怪学」である。

しかしながら、①現在まで、「妖怪学」という学問はまともな形で存在していなかった。すなわち、学問の範囲や目的、研究方法、いずれの面でもまともな議論がなされてこなかったのである。たしかに「妖怪学」という名称は早くも明治の後半に現れており、妖怪を研究する学者も何人かはいたのだが、その研究目的は研究者によって異なり、したがって、妖怪を研究する人たちを「妖怪学」の名のもとに結集させる学会や研究機関を作りだすまでには至らなかったであった。

学問としての「妖怪学」の整備の遅れの理由は、研究者の不足もあったが、「妖怪」が近代の科学においてb**撲滅**すべき「迷信」とされたことが大きかったように思われる。妖怪は近代人には必要ないものであり、妖怪研究はその妖怪撲滅・否定のための学問か、あるいは滅びゆく「迷信」を記録する学問で、近代における人間の生活にあまり積極的な意義を見いだせない研究とみなされたのである。

近代の科学、物質文明の発達・c**シントウ**は現実世界から妖怪を撲滅してきた。しかし、現代においても妖怪たちは滅びていない。活動の場を、都市の、それも主としてうわさ話や②**フィクション**の世界に移して生き続けている。その意味で、現代人も妖怪を必要としているのである。このことは、妖怪が「迷信」としてかたづけられてしまうわけにはいかない、つまり人間にとっても重要な存在な

のだということ物語っている。それは人間の精神生活の根源にかかわる事柄と関係しているらしいのだ。それが何なのか。それを明らかにする学問として、③新しい「妖怪学」は整備される必要があるといえる。

この新しい妖怪学は、やみくもに妖怪信仰を撲滅するわけでもなければ、妖怪信仰を保存しようというわけでもなく、妖怪文化の考察を通じて、人間の精神の歴史や心の在り方を探る学問として構築されるべきである。もともと、この試みはまだ十分な成果を収めているわけではない。むしろ、これから本格的な研究が開始されるというべきであろう。その意味で私は、本書をあえて『妖怪学新考』と名づけてみたのである。

それでは、私が考える「妖怪学」の輪郭とはどのようなものであろうか。簡単に以下で説明しておこう。新しい妖怪学は、人間が想像（創造）した妖怪、つまり文化現象としての妖怪を研究する学問である。妖怪存在は、動物や植物、d コウブツのように、人間との関係を考えずにその形や属性を観察することができないものではなく、つねに人間との関係のなかで、生きているものである。したがって、妖怪を研究するということは、妖怪を生み出した人間を研究するということにほかならない。要するに、妖怪学は「妖怪文化学」であり、妖怪を通じて人間の理解を深める「人間学」なのである。

（中略）

人間はさまざまなことに恐怖する。なぜ恐怖するのだろうか。いうまでもなく、恐怖の対象が自分や家族や自分の属している集団を e ハカイしたり、死滅させたりするかもしれないと思うからである。地理学者の④ イーファー・トゥアンは、『恐怖の博物誌』のなかで、
 文明史的観点からこの問題に考察を加えている。

彼は「風景」(景觀)と結びつけて恐怖を語ろうとする。「恐怖の風景? 耳慣れない言葉にとまどわれることだろう。だが、ちょっと考えていただければさまざまな恐怖のイメージが浮かんでくるはずだ。子供のころなら暗闇が怖かったし、両親に捨てられるかもしれないという不安もあつたらう。不慣れた環境や社会状況に置かれれば不安になる。死体を見ればぞっとするし、超自然現象に出くわせば思わずぎよつとなる。病氣、戦争、自然災害も怖い。病院や刑務所を見れば落ち着かない気分になるし、誰もいない道路、あるいはひとけのない近隣で強盗にfオソソわれる心配もある。世界の秩序が崩れ去ってしまいそうな不安にとりつかれることもあるだろう。」

また、トウアンは、恐怖とは「警戒心と不安という、はっきり区別されるふたつの心理的緊張がからみあつた感情」であり、それは「心にあるが、病的な場合を除き、恐怖を生む客観的な危険因子は外部の環境に存在する」と説明しつつ、次のように「恐怖の風景」の本質をgシシテキキする。

恐怖の風景。それは自然の力であれ人間の力であれ、⑤混沌コンを生み出す力が無限ともいえるほどの形となって現れたものだ。混沌を生み出す力がありとあらゆるところに存在するし、その力を防ブぐクとする人間の試みもまたあらゆるところに見ることができるといえる。ある意味で、人間の手になるもの——物質的なものであれ、精神的なものであれ——は、どれも恐怖の風景を構成する要素だといつていい。なぜなら、人間の作り出したものはすべて混沌を封じこめるためのものだからだ。

すなわち、人間を取り巻く環境は、自然であれ人工物であれ、恐怖つまり「警戒心と不安」の対象にh変貌ヘンボウする可能性を含んでいる

のである。その恐怖心が人間の想像力を動員して超越的存在を生み出し、共同幻想の文化を作り上げ伝承する。恐怖に結びついた超越的現象・存在——それが「妖怪」なのである。

妖怪はあらゆるところに出没する可能性を持っている。「警戒心と不安」を抱かせる存在は至るところに存在しているからである。のどかな「田園」の風景のなかにも、自分の家の居間にも、超近代的なビルのなかにも、妖怪は出没することができるのである。もっとも、そのなかでも、妖怪が出そうな空間というものが存在している。これは人間がのっぺらな漠然とした空間を分割し、安全な空間と危険な空間に分類しているからである。

この空間分類は、人類学者たちの調査報告が語り示しているように、自分を中心に組織される。この空間の分類・組織化は、複数の原理によってなされている。第一の原理は遠近による分類である。空間的に近くにあるものはそれと慣れ親しんでいるので安全であり、遠くのものとはそうではないので不安を抱かせる。第二の原理は、前方と後方の区別に基づく分類で、前方は視覚による判断ができるのに対し、背中の後方はそれができないために危険な空間となっている。第三の原理は上方と下方という分類で、上方が好ましい空間で、下方が好ましくない空間となる。これは上方が太陽の日差しが降り注ぐ明るい空間であるのに対し、下方の大地の下が暗い空間であることも関係している。そして第四の原理は太陽が昇る方角の空間と太陽が落ちる方角の空間で、前者が好ましい空間で、後者が好ましくない空間とされることが多い。そしてさらに第五の原理として、身体の右側の空間と左側の空間に分け、右が好ましい空間で左がそうではない空間とすることがなされる。このような分類原理を組み合わせることで空間の組織化を行ない、人間はその中心がもっとも安全な空間だとみなしているわけである。

いうまでもなく、「ここ」というその「中心」とは自分の身体であり、自分の家であり、自分の住むムラやマチ、ということになる。人々はその中心に近いところを「センメイ」にかつ細部にわたって認識することができるが、物理的、社会的あるいは心理的に遠方にある空間は暗くあまいで空虚な空間になっている。そこが妖怪たちの出没する空間であった。そして夜になると、かつてはほとんどの空間が、囲炉裏の周囲などわずかな空間を除くと家のなかさえも、暗闇に包まれてしまったのである。昼間の空間分類・構成が夜の闇に溶け込んでしまつて混沌に帰してしまう。⑥この一日の半分の深い闇を抱えた夜こそ、昼の明るさのために周辺に排除され封じ込められていた妖怪たちが、潮が満ちるように世界に出現し跳梁するときであった。

(小松和彦『妖怪学新考 妖怪からみる日本人の心』より)

※ 跳梁 … はねまわること。転じて、好ましくないものが、のさばりはびこること。

問一 二重傍線部 a s j について、漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直してそれぞれ書きなさい。

問二 傍線部①「現在まで、『妖怪学』という学問はまともな形で存在していなかった」とあるが、その理由を説明しなさい。

問三 傍線部②「フィクション」の意味として適切なものを次の内から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 幻想 イ 空想 ウ 虚構 エ 怪異 オ 特殊

問四 傍線部③「新しい『妖怪学』は整備される必要がある」とあるが、

「」なぜ整備される必要があるのか、説明しなさい。

「」筆者のいう「新しい『妖怪学』」とはどのような学問か、最も端的に述べた部分を本文中から二十字で抜き出しなさい。

問五 傍線部④「イーファー・トゥアン」とあるが、筆者が彼の言葉を引用した理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、

記号で答えなさい。

ア 人間は人工物への「恐怖や不安」を抱き、その克服手段として「妖怪」という装置を生み出したのだと明らかにするため。

イ 人間が「妖怪」を創り上げる理由として、自然風景への「警戒心と不安」があるということを提示するため。

ウ 周囲の環境は全て「恐怖や不安」に結び付くことを指摘し、それが「妖怪」を創り上げるという自分の意見につなぐため。

エ 人間は自分の馴染みのない空間に恐怖心を抱くことを指摘し、そこから「妖怪」が生じるという持論につなげていくため。

問六 傍線部⑤「混沌」とあるが、

Ⅰ()この言葉をカタカナ三文字で言い換えなさい。

Ⅱ()この言葉の対義語を本文中から抜き出しなさい。

問七 傍線部⑥「この一日の半分の深い闇を抱えた夜こそ、昼の明るさのために周辺に排除され封じ込められていた妖怪たちが、

潮が満ちるように世界に出現し跳梁するときであった」とあるが、その理由を説明しなさい。

問八 筆者の意見を説明したものとして最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 空間を人間がどう認識しているかにより「妖怪」は様態を変えるため、人間の文化と切っても切り離せない関係にある。

イ 人間は自分たちの力及ばぬ自然風景に対して恐怖や不安を感じ、それを克服するために「妖怪」という装置を作成した。

ウ 「妖怪」は自分にとって親しみのない空間への「警戒心と不安」から生じ、認識できない場のみ存在する可能性がある。

エ 人間と妖怪を比較することは一見無駄に思えるが、その研究は人間の本質的な存在意義を教えてくれる。

問九 本文を踏まえ「妖怪という存在について」というテーマでクラスの友人と議論をしている。話の流れを踏まえ、AおよびCさんはどのような発言をしたと考えられるか、①および②に入れるべき言葉を考えて書きなさい。ただし、Aさんの発言には文中に逆接を用い、Cさんの発言は疑問文にすること。

A 「①

B 「だよね、僕たち人間にとって妖怪が本当に必要のないのなら、うわさ話やおとぎ話でも語られなくなるはずだからね。」

C 「②

D 「それはきつと、昼間なら明るいから色々なものが隅々まで見えるし、安心するからなんじゃないのかなあ。」

受験番号		氏名		採点	
------	--	----	--	----	--

一	①	()	②	()	③	()	④	()	⑤	()
---	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----

二	①		②		③		④		⑤	
---	---	--	---	--	---	--	---	--	---	--

三	問一		a		b		c		d		
			e		f		g		h		
			i		j						
	問二										
	問三										
	問四		I								
			II								
	問五										
	問六		I								
			II								
問七											
問八											
問九		①									
		②									

受験番号		氏名		採点	
------	--	----	--	----	--

⑩ 1 各	①	(付) カ	②	(絶) ウ	③	(舟) コ	④	(謀) エ	⑤	(耳) ク
-------	---	------------	---	------------	---	------------	---	------------	---	------------

⑩	①	足	②	目	③	頭	④	手	⑤	腸
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

三	各 2	⑳	a	膨大	b	ぼくめつ	c	浸透	d	鉱物	
			e	破壊	f	襲	g	指摘	h	へんぼう	
			i	でんえん	j	鮮明					
	8		研究者が少ないうえに研究目的・領域がそれぞれ一貫しておらず、統一した方向性をもって研究をまとめることができなかつたことに加え、「近代科学」によつて「妖怪」の存在が認められず、近代における人間の生活に積極的な意義を見出せない研究とみなされたため。								
	④		ウ								
	6	④	I	現代でも人間が必要としている「妖怪」を研究することで、それを必要としてきた人間たちの精神生活を明らかにすることができるから。							
			II	「 人 間 学 」 妖 怪 を 通 じ て 人 間 の 理 解 を 深 め る							
	⑥		ウ								
	各 4	⑧	I	カ オ ス							
			II	秩序							
8	⑧		妖怪は人間を取り巻く環境に対する警戒心や不安などの恐怖から生じるものであるが、明るさゆえ細部まで認識可能な昼に比べ、夜は空間を暗くあいまいで空虚なものに変化させるため、人間が恐怖を感じる時間帯であるから。								
⑥		ア									
各 4	①	(例) 妖怪なんて、単なるうわさだと思っていたけれど、大切な意味があるんだね。									
8	②	(例) でも、なんで妖怪は昼間に封印されてしまうって筆者は言っているのかな？									